

住む, 第4週: 「存在することや行うこと」

演者: レイン・グリーンリーフ・ベレズ

日付: 2023年・10月・15日

皆さんは「Dwell」というシリーズに参加していますね。これは本当に良いシリーズです！皆さん、このシリーズを聞いていますか？神はこのコミュニティに本当に才能のある教師や説教者を与えてくださいました。

私はポー牧師、ジェイミー牧師、アレックス牧師からイザヤについて学ぶのが大好きでした。

このシリーズの名前が「Dwell」というのが気に入っています。ここまで読んできた方なら、聖典の物語の本質は住居であることをご存知でしょう。それは神が私たちとともに住み、私たちが神とともに住み、そして私たちがお互いに住むことについてです。ヨハネが福音書の中でイエスのご性質を説明するとき、その言葉が肉となり、私たちの中に住まわれたと述べています。

創世記と天地創造の記述を振り返ると、人間が神とともに住み、互いに住むとき、神はその住まいを見て「善い」と呼ぶことがわかります。神が何かを良いと言うとき、それは「これはうまくいく！」という意味です。

神はそれを見て、こう言います。あなたのアイデンティティ、あなたの所属、そしてあなたの目的はすべて、必要な場所にあります。あなたは愛されていて、家にいて、目的があるのです。」

それが今日私たちが探求することです。聖文や私たちの信仰の歩みの中で、私たちが誰であるか、そして私たちがしていることの間にはこのような緊張があるように思えます。私たちは内面の自分なのでしょうか、それとも自分の行動によって定義されるのでしょうか？自分らしくないことをしていることに気づくのはなぜですか？私は誰？私は人間なのか、それとも人間がやっているのか？

伝統的に、牧師が「あなたは人間の行為ではない、あなたは人間だ」とはつきりと言うのを聞くかもしれません。

おそらく前にも言ったことがあるでしょう。そして、何かをすることに執着する文化において、それが私たちにとって慰めとなるメッセージである理由はよくわかります。しかし、これを少しニュアンスづけるために、私は実際、その質問を聞こうと思います。「私は人間なのか、それとも人間が何かをしているのか？」答えは「はい」です。私たちが何をするか、この世界での目的は非常に重要です。そして、私たちにとっての成長ポイントは、やることをやめないことです。あなたは目的を持つように作られました。園では、私たちは神が私たちを創造

したいという純粋な喜びと願望から、神から愛されるアイデンティティを与えられ、そのアイデンティティと帰属の場所から、私たちは偉大な神聖な目的を与えられました。したがって、成長のポイントはやることをやめないことです。しかし、もしかしたらそれは行動を変えるためかもしれない。これをやめて、これを始めること。これを減らして、これを増やす。そしておそらく、それは私の行動の背後にある「なぜ」を変えることかもしれません。____だからこれをするのではありません、____だからこれを行います。そして、エデンの園で私たちが見ているもの、創造の記述で私たちが見ているものは、私たちの行動が私たち自身から流れ出るという現実であり、私たちのコインの両方の側面が神によって完全に命令されています。

シュメール人やバビロニア人のような他の古代文化の創造神話を見ると、人間は暴力から生まれ、神に仕えるために生産できるものだけを目的として作られています。彼らは奴隷として作られています。しかし、創世記では、人間は神の神聖な喜びとそうしたいという願望によって創造され、神は創造物を一緒に管理する働きにおいて人間にパートナーシップを提供します。

いいです。

しかし何かが起こり、私たちは神の定め、つまり神が物事を進めるように命じられた方法を台無しにしてしまいました。私たちの周りの世界を見ると、物事が本来あるべき姿ではないことに気づくのは簡単です。たとえあなたがまだイエスに出会っていないとしても、ジェイミー牧師が話したこのことはまだあります。この「イマーゴ・デイ」、あなたの中に存在するこの神のイメージは、私たちが持っているものとはそれではないことをあなたに教えてくれます。不正義、虐待、悪には、私たちが心の底で正しくない知っている何かがあります。

「もし私たちが、この世界の何もかも満たすことのできない欲望を抱えていることに気付いた場合、最も可能性の高い説明は、私たちが別の世界のために作られたということです。」

-

C.S. ルーイス

私たちが歪めてしまった世界、私たちの周りに見える世界は、神の定めを破り、混乱と争いを引き起こす世界です。しかし、彼の創造する世界は完璧です。そして、聖典のすべてが、神がすべてのものを再び新しくし、再構築し、創造物を意図されたとおりに並べ替えているというこの物語を示しています。そしてそのすべては、神とともに、そしてお互いとともに住む私たちを中心に展開します。

旧約聖書学者のサンドラ・リッチャーはこう言いました：

「... 人類に対する神の本来の意図：神の民は神の臨材に完全にアクセスできる状態で神の場所に住む。」

- サンドラ・リチャ、エデンの叙事詩

私たちが神と共に住み、お互いに住む場所を見つけるとき、私たちはヘブライ人がシャロームと呼ぶものを得るでしょう。すべての創造物における完璧な平和と調和。そして、私たちが何者であるか、そして私たちが何をしているかは、再び良い方向に秩序づけられるでしょう。皆さん、神は私たちが永遠に一緒にいることを望んでおられるので、ご自分がなさったことはすべてなさってくださいました。計画Aが失敗したとき、イエスは計画Bではなかったのです。イエスは計画Aの救い主です。彼はこの墮落した世界を、創造された楽園の状態に戻そうとしています。

しかし、彼が始めた良い働きを終えるその時まで、預言者が手紙を書いている亡命後のヘブライ人たちと同じように、私たちはこの緊張の中で生き、それまでの人生がどのようなものであるかを理解しようとしています。多くの明らかな点で、亡命後のユダヤ人は私たちとは大きく異なりますが、他の点では、彼らが取り組まなければならなかったものは、今日私たちが取り組まなければならないものと非常に似ています。

この箇所は特に、バビロニア人の手による非常に長い流刑生活から抜け出したばかりの神の民全体に向けて語られています。その間、彼らの文化、宗教的実践、家庭、民族としてのアイデンティティは絶えず引き裂かれ、追放と困難の真只中にあっても、神からの呼びかけに忠実であり続けるのに苦労していることに気づきました。

そして、自分たちの都市、城壁、コミュニティ、宗教的実践を再建し始めると、彼らはちょっとしたアイデンティティの危機に陥っていることに気づきました。彼らが自分たちの土地を手に入れ、自由に神を崇めることができるようになってから何世代も経ちました。彼らは最初からやり直さなければならず、亡命中に学んだ習慣を断ち切るのは難しい。彼らは、抑圧者たちからどのように生きて崇拝するように教えられたのか、そして神がどのように生きて崇拝するよう彼らに求められたのか、区別するのに苦労しています。

そしてここが、私たちが彼らの旅から学ぶべきことがたくさんあると思うところです。ご存知のとおり、私は我が国を愛しています。他の場所に住みたいとは本当に思いませんが、結局のところ、イエスが統治していない国はバビロンの別のバージョンにすぎません。私の国がどれほど慈悲深く、民主的であっても、依然としてイエスによって運営されているのではなく、人間の手によって運営されており、人間の手によって運営されている世界は、神が私たちの世界に対して意図したものには及ばないでしょう。

そして時々私たちに起こることは、ルイスが言うように、私たちが別の世界のために作られたことを忘れることです。そして、私たちは流刑の地で快適になりますが、それは良い意味ではありません。偶像崇拝者の中で神の約束の中で私は安心しています。しかしむしろ、私たちはキリストよりもその文化によって弟子となることになるのです。私が注意しないと、イエスが私たちの二次的な忠誠になってしまう可能性があります。私たちは神の選ばれた民であるとい

うよりも、よりバビロニア的になってしまいます。そしてイエスは、私が築いてきた人生の上に振りかける妖精の粉となり、彼がそれをより良くしてくれることを願っています。

しかし、ケイシーが先週歌ったように、このキリスト教の物事はそうはいきません。神が創造してくださった善が私たちの生活や地域社会に現れるのを見たければ、私たちはすべてを神に捧げる必要があります。私の献身、愛情、崇拝は、何よりも完全に神に属していなければなりません。そうでないと、誰に従うかを私の心と頭の中で常に競争することになります。

私は、ここにいるカナン人の神々を傍観して崇拝することはできませんが、それでもヤハウエに忠実であることはできません。

そしてイエスは、今日私たちがよく参照する山上の説教の中で、だれも二人の主人に仕えることはできないということを追従者たちに思い出させています。

私は自分の国を愛し、その繁栄のために戦い、繁栄を求め、指導者のために祈り、スポーツチームを応援することができますが、だまされてはなりません、ここは私の家ではありません。あまり。パウロがフィリピン人への手紙に書いているように、私たちは何よりもまず天の国民です。そこに私の本当のアイデンティティがあるのです。

さて、それでは、読んだ文章の中に登場する言語の一部を紐解いてみましょう。光、くびき、そして庭園についての話があります。結局のところ、これはイエスに従う私たちにとって何を意味するのでしょうか？

さて、アレックス牧師、ジェイミー牧師、ポー牧師がここ数週間にわたって明らかにしているように、神の民であることが何を意味するのかをめぐる緊張感があります。彼らは神殿を再建し、律法を開き、祭りを再開し、断食を行っていますが、それでもヤハウエの臨在、神の臨在は神殿に戻ってきません。

彼らはあらゆることをし、あらゆることを読み、断食し、祈っています。彼らは「隔離」されているのです。彼らは「神聖」なのです。しかし、ここでも偶像崇拝と契約違反が左右で起こっています。彼らはヤハウエを崇拝する特典を望んでいますが、依然として征服者の文化的影響にしがみついています。しかし預言者は、そもそもなぜ彼らが分け隔てられたのかを思い出すよう人々に訴えています。神の民は、区別され、聖なるために選ばれたのではなく、神がお気に入りを持ち、その土地の他の小文字の g の神々よりも多くの特典を与えるために選ばれたのです。彼らは国々に祝福をもたらすために分けられました。創世記 22 章、あなたがわたしに従ったので、すべての国々は祝福されるでしょう。

預言者は神の民を目覚めさせるために厳しい言葉を使います。それは断食だけではなく、良い宗教的実践だけでもありません。あなたがたの中の貧しい人々のために何をしていますか。お

腹が空いている人に食事を与えているのですか？あなたは孤児と未亡人の世話をしていますか？

神が彼らに「あるべき姿」を求められたことと、彼らが「行うべきこと」を求められたことの間には、乖離があるように思えます。そして神の臨在は神殿に戻ってきませんでした。そして彼らは「なぜ？」と疑問に思うはずです。私たちは神殿を元に戻しました。それはかわいい。ケルビムのようなものがあるのを見てください。シヨーパーンをご用意しました。好きなエッセンシャルオイルを拡散させていただきます。どうして？

そして預言者は、ちょっと難しいことを言います、「あなたが神があなたを造った人間のように行動し始めるとき、神が大切にしている人々の世話をし始めるとき、神はあなたのしていることをサポートしてくれるでしょう。」しかし、彼は実りのない信仰を支持するつもりはありません。預言者は、彼らが恵まれない人々の世話を始めた後、

“そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。”

イザヤ書 58:8 口語訳

あなたが神が気にかけている仕事を始めれば、神はあなたの背中を押してくれるでしょう。しかし、もしあなたが神が愛する人々を無視し、神の仕事をしているふりをしながらそれを行うなら。彼はそれを支持しないだろう。

主の御名を悪用する - 神の御名を私たちの議題に載せること。

私たちがそうする限り…彼は私たちをサポートしません。

これは神があなたを愛し、あなたと一緒にいたいということではありません。彼はそうしており、それは決して変わりません。しかし、私たちが神の御心を無視しているのに、どうやって神の備えを期待できるのでしょうか？

このように考えてみてください。たとえ子どもの有害な行動を許可することを拒否したとしても、子どもを愛し、一緒にいたいと願うことはできるのです。

預言者は神の民に、ただ神を愛していると言うだけでなく、神が愛する人々を愛することによってそれを示すよう求めています。

預言者はボーが「死んだ宗教」と呼んだものと対峙している。アレックス牧師は先週のジェームズの手紙に言及した。「行いのない信仰は死んだものである。」

ここからが興味深いことになります。およそ50万年前を早送りしてみましょう。そして私たちは神の民に遭遇しますが、彼らは再び征服されました。今度はローマ帝国です。そして、パリサイ人や宗教エリートたちは、まだそのメッセージを完全には理解していません。彼らの多くは富と快適さを享受していますが、神の民の多くは税金とローマ法によって抑圧されています。しかし、彼らはもっと良いことをしています。彼らは貧しい人々に寄付をしています。しかし、SOTMの中で、イエスは、彼らがそれを行うとき、彼らは他の人に見られるように街頭でトランペットを吹きながらそれを発表していると語ります。彼らはより多くの正しいことをしようとしていますが、その理由を実際には理解していません。彼らは要点を逸脱している。イエスは彼らが白塗りの墓であると非難します。外見的にはよくまとまっていて神聖に見えますが、内面は死んでいます。

したがって、存在することと行うことに対するこの同じ緊張が問題であるように思えます。

イエスは山上の説教の中でイザヤ書に何度も言及しています。非常に似た言語がたくさんあります。そしてマタイ7章で彼はこう言います。

- “わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。”
- マタイによる福音書 7:21 口語訳

それはイザヤによく似ていますよね？ただたくさん祈るだけではなく、周りの人のために良いことをしてください。そして、私たちはそれを読んで、「ああ、分かった、それでは何をしなければならないのか教えてください。そうすれば天国の列車に乗ってみましょう」と思うかもしれません。どの団体に寄付する必要がありますか？マーク牧師が別の井戸を掘るのはいつですか？私は行く。”

しかし、そう言った直後に彼はこう言います：

- “その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしは彼らにはつきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ』。”
- マタイによる福音書 7:22-23 口語訳

それで、何が起きているのでしょうか？あなたは、私たちが信仰を行動に移し、正義を行い、周りの人々に慈悲を愛する必要があると教えてください。でも、そんなことをしても、あなたは私たちに拒否するつもりですか？

したがって、イエスを主と認めても、父の御心を行わない人は、天国に入ることはできません。しかしまた、御父の良い働きをしているが、イエスを知らず、イエスと何のつながりも関係もない人々も、天国に入ることはできません。

イエスが心についてこれほど語るのには理由があります。イエスは一種の内面の変化を経て、あなたの意志と行動を変えます。神を愛している、十戒を破らないと言うだけでは十分ではありません。そして、たくさんの良い仕事をするだけでは十分ではなく、私たちは内側から外側まで変わらなければなりません。そうしないと、私たちが生み出すものは、神との真のパートナーシップの中で得られる素晴らしいものには常に及ばないでしょう。そしてその変化は、神を知ることによるつながりによってのみもたらされます。御父とのつながりや関係がなければ、私たちは御父のことを本当に気にすることはできません。

イエスとの生活に関して言えば、私たちが何者であり、何をしているかは、私たちの人生のさまざまな側面と完全に統合されています。そして、死んだ宗教はそれらのうちの1つに焦点を当てすぎています。しかし、イエスのうちに深く形成された人生は、知ることと行うことにおいて一体化しています。

死んだ宗教 (これらの箇条書きを 1 つずつ上げていきたいと思います。そして、「住み着く信仰」リストに並ぶこと。)

- 神について知っている
- 愛のために働く
- 遽しい

根付く信仰

- 神を知っている
- 愛から生まれた作品
- 手堅い

死んだ宗教

- 神を知っている

死んだ宗教でも聖書を暗記できる。死んだ宗教でも神学や歴史に精通することがあります。死んだ宗教は、それに疑問を呈する人を議論するのを打ち負かすことができます。しかし、神について知ることと神を知ることとは同じではありません。

死んだ宗教は神について知っていますが、今も生きている信仰は神を知っています。

使徒行伝 4 章では、使徒たちの働きに対して人々がどのように反応したかがわかります。

“人々はペテロとヨハネとの大胆な話しぶりを見、また同時に、ふたりが無学な、ただの人たちであることを知って、不思議に思った。そして彼らがイエスと共にいた者であることを認め、”

使徒行伝 4:13 口語訳

どのような種類の友情でも結婚でも、パートナーのことを知っているのは良いことです。何が好きなのか、何が嫌いなのかなど。しかし、本当の関係とは、知っているだけではなく、つながりが重要なのです。私たちは神とともにいるために、祈り、孤独、熟考の時間をとっているのでしょうか？それとも私たちの宗教が彼との関係に取って代わったのでしょうか？

根付く信仰

- 神を知っている

住み着いている信仰は、秘密の場所で時間を過ごし、静かな空間に退き、意図的に神の臨在の中に住んでいます。

根深い信仰は、真実は理解されるべき概念ではなく、人が知るものであるという現実を受け入れます。

死んだ宗教 - 愛のために働く

働き、車輪を回転させ、過酷な作業に取り組み、

- 神の承認を得る。
- 当社には週末に働く文化があります

根強い信仰

愛から働く - 安息日 - 庭園 -

死んだ宗教

不安 - 死んだ信仰は不安です。それは私たちを孤立させるので、平和はありません。それは私たちを住居とは正反対の孤独へと引きずり込みます。そして孤立は恐怖と恥の場所です。しかし、住居は安全であり、平和であり、希望の場所です。

ヨハネ15章を読んだことがありますか？

ヨハネは、イエスが裏切られた夜に与えられたこの教えを思い出します。イエスはこの比喻を、自分がぶどうの木であり、弟子たちがその枝であると概説しています。そしてイエスは弟子たちに、ご自分の愛に留まるように言います、そうすれば彼らは多くの実を結ぶでしょう。キリストの愛の中に留まるとき、私の人生は善いものをもたらします。

私が誰であるかは、彼が誰であるかに根ざしているので、私がしていることは私が誰であるかから流れ出ています。しているか、やっているかという問題はありません。私が支店の場合、これら 2 つの概念は同じものです。ぶどうの木にとどまることは実を結ぶことです。

ここには多くの混合比喩がありますが、イザヤは光について多くのことを語っています。しかし、興味深いのは、神はこの救世主（私たちが今ではイエスであると知っている）を光と表現しているだけでなく、私たちを光とも呼んでいるからです。ヨハネはイエスを世の光と呼んでいます、イエスは私たちを世の光と呼んでいます。しかし、どうしてそんなことがあり得るのでしょうか？さて、私がブドウの木を見て枝を見ると、多くの枝がブドウの木の一部であることがわかります。はい、個々の枝はたくさんありますが、それらはすべてブドウの木の一部です。

同じように、私たちがキリストの愛に一つになるとき、私たちはキリストが世を照らす光となります。

このセクションでは光と庭園について説明します。

- 光はイザヤ書や聖典全体で繰り返し登場するテーマです。
 - “暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。 暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。”（イザヤ書 9:2 口語訳）
 - “この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。 光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。”（ヨハネによる福音書 1:4-5 口語訳）

光は存在と行為の統合の完璧な例です。光はそれ自体であり、光が行うべきことを行います。光なら光る、光れば光。両者を区別することはできません。物理学者の皆さんは、光が粒子であり波であることを知っています。それが何であるか、そしてそれが何を行うかは同じことです。

イエスとの私たちの生活も同様であるべきです。私たちが誰であるか、そして私たちが何をしているのか、統合された全体的なもの。

そしてイザヤは、私たちが何者であり、私たちがしていることが神の愛によって統合されたとき、光が輝くだろうということを彼らに理解させようとしています。

“飢えた者にあなたのパンを施し、 苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、 あなたの光は暗きに輝き、 あなたのやみは真昼のようになる。”

イザヤ書 58:10 口語訳

主に対するあなたの情熱が行動に表れるとき、あなたの光は輝きます。

イエスは、他の人があなたの良い行いを見ることができるよう、あなたの光を輝かせなさい、と言いました。しかし、問題は、彼らが天の父に栄光を帰すためであるということです。

もし私たちが神の愛を得るために良いことをしているのであれば、あるいは偽善者が他人に認められるためにしているように、イエスが求めているのはそんなことではありません。私たちの光は常に人々をイエスに向けるべきです。

では、この園芸事業はどうでしょうか？

- 庭園は私たちが行くところです。ザ・ガーデン、エデン。
 - しかし、興味深いことに、11節にこう書かれています。
 - あなたは水の満ちた庭園のようになるでしょう。湧き出る水のように、その水は決して枯れることはありません。

住居 - 幕屋、

- それは最も文字通りに、神が来て私たちの間に幕屋を築かれたと言っています。
 - 幕屋は庭園のように作られ、エデンが神と人間が共に住む場所を表していることを思い出させます。
 - ですから、神は私たちの中に生きておられるので、私たちが神が始めたことを終わらせ、新しい天と新しい地をもたらし、私たちの世界を再びエデンのようなものにしてくださるのを緊張しながら待っている間、私たちはどこへ行ってもエデンになるのです。私たちは庭園になります。私たちはこの世における神の臨在の器となります。天国は私たちが足を置くところならどこにでも行きます。
- 時々私たちは救いの問題に夢中になってしまうことがあります。
 - しかし、私は天国に行くのに十分な努力をしたでしょうか？エデンを獲得するのに十分な努力をしたらどうか。それは死んだ宗教です。
 - 私は地上の天国を体現するのに十分な努力をしましたか？
 - 私は父が私にこすりつけるような仕方でも父とともに住んでいるでしょうか？私が誰かの目を見つめるとき、私はとても足を踏み入れて神と同調しているので、彼らは私の中に彼らに対する神の心を理解しているのでしょうか？
 - それは死んだらどこに行くかということだけではありません。それは、私が創造された自分になり、生きている間にするために創造されたことをしているかどうかです。
 - 神の民であるあなたと私は、この場所を神のものであるかのように扱い、どこへ行くにも神の臨在を携えています。

さて、それでは私たちにとっての道は何でしょうか？死んだ宗教の人々にならないようにするにはどうすればよいのでしょうか？念のために言っておきますが、死んだ宗教は、行うことなく知るか、知らずに行うかのどちらかに焦点を当てています。死んだ宗教は、ブドウの木の上でその場所を獲得するために実を結ぼうとしている、切り落とされた枝です。あるいは、それは

自分自身の蔓となって実を結びたいと願う枝です。果物の作り方は知っていますが、ブドウの木とは関係がないからです。

神の愛を受け取ってください (兄症候群)

- 宗教心はどこから来るのでしょうか？
- それは、神が私たちとともにいることを望んでおり、私たちに許しと承認を与えてくださっているという現実を受け入れられないことから生じます。それは私が彼の愛のために自分のやり方をしなければならないと思い込んで自分自身を欺いたときに起こります。
- 二人の息子のたとえ
- 「あなたはいつも私と一緒にいます、そして私が持っているものはすべてあなたのものです」
- 神はイエスの死と復活を通して私たちに臨在を提供してくださいますが、それだけで十分です。
- 最も意地悪ないじめっ子は、常に最も見捨てられ、虐待される人たちです。
- もし私たちが死んだ宗教の人々であるとしたら、それはイエスが私たちに惜しみなく与えてくださった恵みを受け入れられなかったからです。

神の愛によって形成される (息子を見て)

- 私は父親に近づくために何かをするのをやめ、父親との居場所から何かをし始めます。
- 私は自分を形成するもののよう見え始めます。
 - もし私が自分の文化によって形成されているのであれば、私は自分の文化に合わせて見た目や行動をするでしょう。
 - もし私がイエスの愛によって形成されているのなら、すぐに人々は私の顔と神の愛の違いが分からなくなるでしょう。
 - それが私が望むことです。
- 神とともに住むことで私は変えられているのでしょうか？彼が私をこんなふうに作ってくれた人になりつつあるのでしょうか？

神の愛を分かち合いましょう

- 私が自分のために受け取ったもの、そして私を変えてくれたものを、今では他の人に惜しみなく与えることができます。
 - イザヤ書は、私たちは決して枯れることのない水の泉のある庭園のようになると言っています。
 - そうすればあなたは水の満ちた庭園のようになるでしょう。
 - 湧き出る水のように、その水は決して枯れることはありません。

- 私に対する神の尽きることのない愛を理解したとき、私は今、神が誰であるか、神が何をなさったかについて確信を持ち、不足や恐れの問題なしに自由に分かち合うことができます。
- 「私たちの天の父が完全であるように、完全でありなさい」 - 私たちがお互いを愛する方法に関して言われました。
 - 人々の罪を責めないこと。
 - 彼らが私を呪うとき、彼らを祝福してください。
 - 彼らが私の幸福を求めているときでも、彼らの幸福を求めます。
 - 私にこれができるのは、亡命先で何が起ころうとも、私はキリストの愛の中に留まるからであり、私は世の光であり、命の園であり、その命と愛の源は決して尽きることがないからです。